医療法人 創起会
くまもと森都総合病院
病院だより
2020年 春 第23号

1月4日　仕事始め式

新春のご挨拶

明けましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。
皆様におかれましてはそれぞれの思いで、新たな令和2年の新年をお迎えのことと拝察いたします。
本年が皆様にとりまして、輝かしい1年となりますよう心からお祈り申し上げます。

当院にとりまして新病院に移転して3回目の迎春になります。これも偏に日頃の皆様のご支援のお陰と、深く感謝申し上げます。

お陰様で、新病院に移転後多くの方に来院いただいており、職員一同忙しくも、感謝の気持ちをもって毎日の仕事にあたっています。当院の理念は「質の高い医療を通じて地域に愛され、親しまれる病院を目指す」ことで、さらに果たすべき役割として挙げているのは1．がん診療、2．専門性を持った医療、3．地域に根ざした医療連携、4．医療人育成、5．社会への啓蒙および社会貢献です。これらを踏まえ重要と考えて実践しているのは“患者さんを中心としたチーム医療”です。多くの専門職が“患者さんの満足度を上げる”べく、最新の医療情報を踏まえてチームとして頑張っているところです。いろんな不安を抱え来院される患者さん方の不安を少しでも軽減すべく、正確な診断、適切な治療はもちろん患者さんの思いを理解し、サポートしていきたいと思います。

今年も引き続きご指導・ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

令和２年１月
院長　西村 令喜

バレーボール大会

令和元年 11 月 30 日(土)白川小学校体育館にて、病院移転後初めてのミニバレー大会を開催しました。
当日は15チーム76名の参加となり各コートで熱戦が繰り広げられました。
ハードな動きにも関わらず、選手の皆さんに大きなけがもなく無事に終えることができホッとしました。

日頃の勤務の中では、なかなか部署間のコミュニケーションが取りづらいところもあるかと思いますが、どのチームも和気藹々と声を掛け合い、ひとつになってプレーをされていました。このようなイベントを通じて院内の連携が密になり病院の発展に繋がれば幸いと思っています。
〔広報・イベント委員会〕

出張健康講話

2019年11月30日5回目となる出張健康講話をイオン熊本中央店にて行いました。当日は、大江校区内で 高齢者向けのイベントが行われているということで、参加人数がいつもより少なくなると運営スタッフから聞いていました。しかし、当日は36名もの方々に参加いただき、改めて健康に対する意識の高さを感じました。
今回は、百歳体操の後に「ヒートショック」についてお話しました。「ヒートショック」について知っている方、または言葉だけでも聞いたことがある方は全体の1割程度であり、その言葉はあまり浸透していないようでした。理由として、「最近は何でも横文字になっているので分かりづらい。」という声が聞かれました。

百歳体操の模様

入浴中の事故死の5割が冬に集中しており、ヒートショックがその一因となっていることから、これから冬本番を迎える中、理解度の低かった「ヒートショック」について正しい知識を身につけていただく良い機会になったのではないかと思います。

〔報告：保健師 長谷川留美〕

勤労感謝の日

今年も、事業所内保育施設「大江の森保育園」から勤労感謝の日慰問に来ていただきました。

診療科紹介　ー整形外科ー

整形外科部長　高田　興志

当院整形外科は、2017年4月に新病院移転と共に整形外科医3名の新体制となり、早3年が過ぎようとしています。

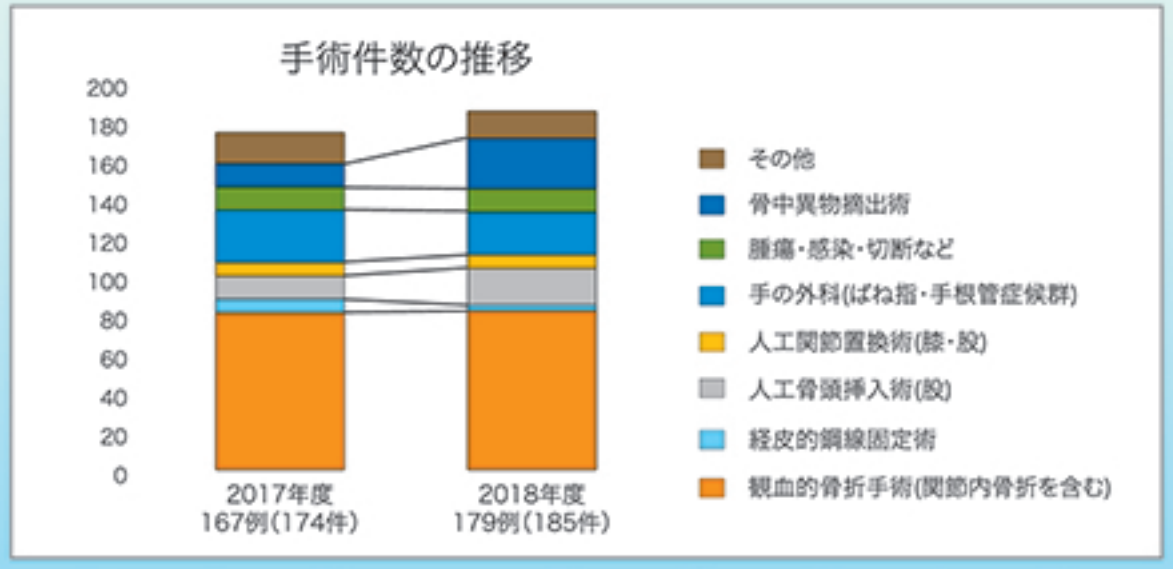
当科では、骨折・外傷、関節疾患、脊椎疾患などの一般整形外科の診断、治療を中心に行っています。近年、超高齢化社会に伴い高齢者の転倒による骨粗鬆症性骨折や骨関節変性による障害は、増加し続けています。骨折などの外傷は昼夜問わず偶発的に発生するため、当科では夜間および休日もオンコール体制をとり、24時間の救急診療にも対応しています。

また、当院には地域包括ケア病床が30床あり、整形外科疾患の保存療法や整形外科手術後のリハビリテーション、急性期病院から依頼された後療法など、短～中期的な入院治療も行っています。

大腿骨近位部骨折は高齢者のADLならびにQOLを著しく低下させ、早期離床と早期リハビリテーションのため手術治療を基本とします。骨折型に応じて観血的骨折手術や人工骨頭挿入術を選択して手術を行います。高齢者は循環器疾患や代謝疾患など多くの既往症を有しているため、手術のリスクや周術期合併症について他科と連携して治療を行っています。臥床や不動による弊害を少なくするために、早期手術、早期離床を進めてリハビリテーションを行います。

脊椎圧迫骨折は、同じく骨粗鬆症性骨折の代表であり、コルセットによる保存療法で治療します。適切に治療すれば、大きな機能障害を残さずに済むことが多いですが、レントゲンによる診断は専門医でも困難な場合があるため、治療が遅れることもあります。また骨折が脊柱管に及ぶような脊椎破裂骨折や不安定性のある脊椎損傷の場合には、脊椎圧迫骨折と治療法が異なり、離床やリハビリテーションの勧め方に注意が必要で、時には脊椎手術を要することがあります。当科では脊椎圧迫骨折の早期診断や脊椎損傷などとの鑑別が必要な時は、MRI検査やCT検査を行います。脊椎手術を要する場合は脊椎外科のある医療機関への依頼・調整を行い、保存療法が可能な場合は当院での入院リハビリテーションを行っていきます。

骨粗鬆症は脆弱性骨折の重要な要因です。治療薬としてはビタミンD3製剤やSERM剤、ビスフォスフォネート剤が一般的に使用される薬剤となっています。最近では、ヒト副甲状腺ホルモン薬や抗RANKL抗体製剤、抗スクレロスチン抗体製剤など強力な薬剤も出現し、治療の選択肢も広がっています。治療薬の種類の増加と同時に薬剤の適応や使用方法の注意点、副作用などの問題も複雑化しており、当科では薬剤に関する知見を深めながら治療を行っています。



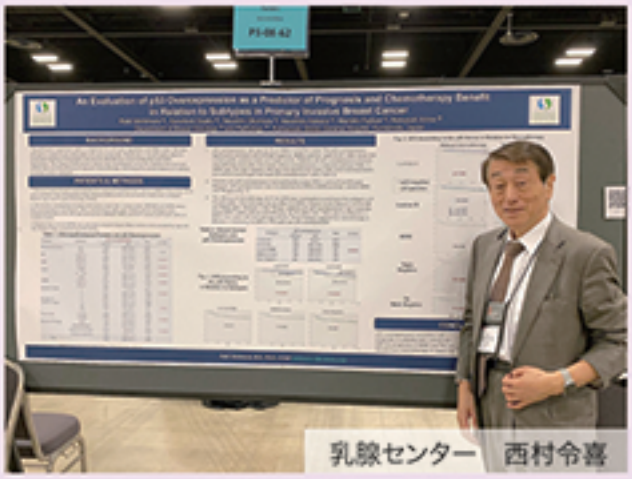
〈国際学会報告〉

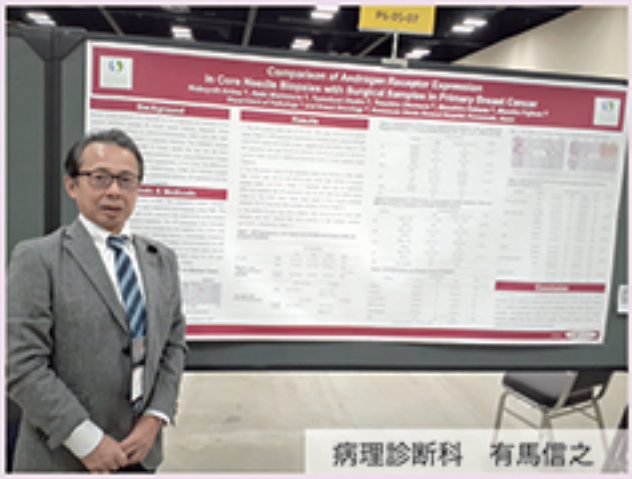
サンアントニオ乳癌シンポジウムに参加して

乳腺センター　西村令喜
病理診断科　有馬信之

毎年、12月にアメリカ・サンアントニオ市にて乳癌に特化した国際学会が開催されます。ちなみに、サンアントニオ市は熊本市と姉妹都市の関係にあり、これまでに多くの市民が当地を訪問し、親睦を図っていると思います。しかし、今回は国際学会での発表が目的であり、病理診断科の有馬先生と参加してきました。今年は90カ国から7500名の参加者があり、大変活気のある会議でした。今回も注目すべき発表が多く、素晴らしい発表にはStanding Ovationが送られます。今年の注目は遺伝子パネルと免疫チェックポイント阻害剤でしたが、ますます診断・治療は個別化に向かい、われわれもそれに対応しなければ一気に遅れをとることになります。今回、私の発表は"An evaluation of p53 overexpression as a predictor of prognosis and chemotherapy benefit in relation to subtypes in primary invasive breast cancer"で、乳癌で最も高頻度に見られるp53遺伝子変異で予後、治療との関連についての発表を行いました。一方、有馬先生は"Comparison of androgen receptor expression in core needle biopsies with surgical samples in primary breast cancer"で、新たな治療となり得るAndrogen受容体についての発表でした。いずれも多くの質問があり、やや安堵した次第です。今後ともこういう国際学会における自施設でのデータ発表を継続していきたいと思います。

会場　Henry B. Gonzalez Convention Center


乳腺センター　西村令喜


病理診断科　有馬信之